

見学会の小学生による筆の質問 Q&A

Q1. 筆は一日に何本造っていますか？

A. 作り方により数が違います。

一度にたくさん造れる「ぼん混ぜ」で一人一日の生産量は、50～150本で、高級品を造る「ねり混ぜ」では、20～50本です。

※ぼん混ぜ・・・奈良より伝わった製筆方法。お盆の上で乾いたままの毛を混ぜて造るやり方。現在、主に奈良県、熊野（広島県）で行われています。

※ねり混ぜ・・・京都の製筆方法で毛を水で浸した後、折たたんではのぼすを繰り返し行い混毛するやり方。

主に川尻（広島県）、豊橋（愛知県）で行われています。

Q2. 筆の毛は何から出来ているのですか？

A. 動物の毛とナイロンの毛があります。

動物の毛では、羊・馬・狸・鹿・イタチ・猫など。

変わったもので、鳥・木・草など、あらゆるもので筆が造られています。

Q3. なぜ、糊をつけてあるのですか？

A. 毛をのぼす為、保存状態と見た目を良くする為です。

Q4. 筆造りは、いつ頃から始まったのですか？

A. 中国の戦国時代、楚の遺跡から「長沙筆」^{ちょうさひつ}が出土していますが、これより以前、白色土器の中には毛筆で描いたらしい文様があり、これにより毛筆の起源は紀元前 2500 年頃になると考えられています。

Q5. 筆を造りにくい毛は何ですか？

A. 筆は毛先がとがっていなければ使えませんので、先の無い毛、曲がっている毛、すれた毛、わた毛は使えません。イタチ、狸、猫など、毛の型が凸凹したものは技術がなければ造りにくい毛です。

Q6. 筆は何種類ありますか？

A. 大きさによる分け方で、小さい筆から数えますと点付筆・面相筆・細筆・小筆・中筆・大筆・特大筆とあります。

他に毛の種類による分け方、そして水墨画とか絵画用など、用途別に分けていくと数えきれない数になりますが、弊社では書道用、絵画用と合わせて 2000 種類位になります。

Q7. 1本の筆に毛は何本使われていますか？

A. 羊毛の中筆、直径7.8mmの筆で約3000本ありました。

Q8. 値段が安い筆と高い筆ではどこが違いますか？

A. 値段が高い筆ほど良い材料を使いますし、職人もより練度の高い人が造ります。

Q9. 川尻はなぜ筆造りが盛んになったのですか？

A. 川尻の筆造りは嘉永3年（1850年）江戸時代の末期よりと言伝えられています。

当時、産業は農業と漁業で貧しく、農業も半期は遊びだったので仕事が欲しかった所、^{きくたにさんぞう}菊谷三蔵が筆造りを呼びかけ、^{うえのやえきち}上野八重吉が造り初め町内に広まりました。

Q10. 筆造りはどこが盛んですか？

A. 中国・台湾・日本です。

日本では、広島県の熊野・川尻、愛知県の豊橋と奈良県が、筆の四大生産地となっています。ちなみに、広島県で日本の筆の90%が造られています。

Q11. 筆は機械で造っているのですか？

A. 筆は手作りですが、部分的に機械を使う事もあります。

Q12. 筆を一番に発明した人は誰ですか？

A. 資料上では「史記」、「博物志」宋の^{そいかん}蘇易簡の「文房四譜」のいずれにも筆は^{もうてんしょうぐん}蒙恬將軍の造ったものという事になっていますが、それ以前、中国の湖南省、長沙市の墓より毛筆が発掘されています。いずれにしても、蒙恬將軍が改良し、現在の筆に近い姿にした人と言われています。

Q13. 筆造りの仕事はどの様に分かれていますか？

A. 穂を造る人、軸を造る人、組み立てる人、仕上げをする人、検査をする人に分かれます。

Q14. 日本で最初に筆を造った人は誰ですか？

A. 平安時代の初め、空海が遣唐使より帰り見聞した製筆法により、筆工、坂名井清川に命じて^{さかないのきよかわ}狸毛筆を造らせ嵯峨天皇に献上したとありますが、これより以前、すでに筆は造られていたと思われます。

Q15. 毛はどこから仕入れているのですか？

A. 世界中から仕入れています、主に中国（イタチ、テン、羊、馬、狸など）、北米（馬など）、日本（鹿、狸、むささび、猫など）です。

Q16. 墨をよく含む毛は何ですか？

A. 柔らかい毛ほどよく含みます。特に羊毛の毛が一番です。

Q17. 一番高い筆は何ですか？

A. オスの羊毛の首の回りに細光鋒と言う毛がとれます。この細光鋒の一番長い 15 cm～20 cm の細微な毛だけを 10 年間位かけて集め、出来た筆で 200 万～300 万円します。

Q18. 一番安い筆は何ですか？

A. ペンキ用とかプラモデルに使う筆です。
使い捨て用なので 200 円～300 円と安価です。

Q19. 筆造りはむずかしいですか？

A. 簡単ではありませんが、経験を重ねると出来るようになります。
個人により異なりますが、職人としては約 10 年で一人前になると言われています。

Q20. 筆はなぜあんな形になったのですか？

A. 刷毛は面を塗るのに便利に出来ていますし、筆は線を引くのに便利に出来ています。特に太い所と細い所の使い分けが楽に出来るよう工夫された結果、この形になったものと思われます。

Q21. 筆を造るのに失敗したらどうするの？

A. 失敗しないよう少しずつ形を造っていき、次第に数を増やしていくやり方で行います。

Q22. 筆の軸はなぜ竹で出来ているの？

A. 軸の部分は竹が多いですが、材料としては竹、木、水牛、プラスチック、セルロイド、鉄、変わったものでは陶器などもあります。
竹はどこにでもあり安価で、内が空洞になっているので軽く扱いやすかったのでしょう。

Q23. どんな筆がよく書けますか？

A. 普通に考えると高い筆ほど良く書けると思いますが、羊毛筆などでは高い筆ほど柔らかくなり、使い慣れないと自由に動きません。
要は、自分の書きたい線が引き易い筆と言うのが良く書ける筆という事になりますので、自分の手に合う筆を早く見つける事が肝心です。